

第15回定期総会は書面評決により全議案を可決しました

昨年に引き続き今年に入っても、コロナウイルス感染は収まる気配はなく、まん延防止重点措置等が続き多人数での集会を開催することは出来ません。やむなく今年も総会を書面評決とさせて頂きました。全ての議案が可決したことを報告いたします。皆様のご協力ありがとうございました。

議案	賛成	反対	未提出	計
第1号議案 2020年度 事業報告	41	0	9	50
第2号議案 2020年度 決算報告・監査報告	41	0	9	50
第3号議案 2021年度 事業計画(案)	41	0	9	50
第4号議案 2021年度 予算(案)	41	0	9	50
第5号議案 理事・監事選任(案)	41	0	9	50
第6号議案 定款変更(案)	41	0	9	50

定時総会議決結果は 総数(団体19、個人31) 50、提出41、未提出9 となり賛成多数(82%)で可決されました。

■2020年度 事業報告・決算報告(要約)

FSVネットの存在を地域の自主防災組織に理解していただき、当ネットワークへの加入により日頃から顔の見える関係づくりとFSVネットを活用した地域防災力の向上促進の支援を計画しましたが、新型コロナウイルス拡散防止のための自粛要請により大半の事業が中止となりました。

●2020年度 収支決算概要

特定非営利活動に関わる事業会計

2020年4月1日より2021年3月31日迄

科目	予算額	決算額	差異(予-決)
当期収入合計(A)	256,000	266,008	-10,008
当期繰越収入差額	809,713	809,713	0
収入合計(B)	1,065,713	1,075,721	-10,008
当期支出合計(C)	256,000	209,988	46,012
当期支出差額(A)-(C)	0	56,020	-56,020
次期繰越収支差額(B)-(C)	809,713	865,733	-56,020

■2021年度 事業計画

1. 自主防災組織による地域防災力向上支援
2. 関係団体、行政との連携強化

- ①市民活動及びボランティア活動を行う団体・個人のネットワーク化の推進
- ②災害時の活動・拠点及び情報伝達手段の整備、体制づくり

○ サテライトセンター設置支援 ○ 情報伝達の体制づくり/災害情報コーディネータ講座

③災害時を想定したシミュレーション訓練、各種講座の開催、広報啓発

○ 災害救援ボランティアセンター設置、運営訓練 ○ 災害ボランティアコーディネータ養成講座 ○ 会報「FSV ネットニュース」の発行 ○ 講座、講演パンフレット等各種資料 ○ 防災セミナー他

④相互理解のための交流の場づくり

○ シンポジウム、交流会参加

⑤大規模災害被災者支援

■2021年度 収支予算書

科目	予算額	備考
当期収入合計(A)	249,000	会費、事業費、助成金当
当期繰越収入差額	865,733	
収入合計(B)	1,150,733	
当期支出合計(C)	285,000	事業費、管理費等
当期支出差額(A)-(C)	36,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	901,733	

■役員(理事、監事)の選任

理事15名、監事2名が選任された。

理事の互選により、理事長1名、副理事長4名が決定した。

明日へ共に力を合わせて

私が初めて災害と関わったのは1983年8月の台風5号、6号の相次ぐ襲来により、境川が氾濫し円行から片瀬まで甚大な被害が発生したことに依ります。特に境川と柏尾川が合流する奥田、川名地区が著しく、イトーヨーカドー、エスタの地下は水没し、山武、神戸製鋼等の工場地域も甚大な被害を受け、私の会社も床上浸水しました。当時は災害ボランティア等は未だ無く、罹災証明も無く市から一律一万円が支給されただけで、全て自己で復旧させました。この災害が川底掘削、河

お世話になりました

1995年の阪神淡路大震災ではボランティア活動に数人で参加し、屋根のブルーシート張替えや建物の危険度判定の活動をして、被災者の皆さんに大変喜んで頂きました。現地にはボランティアセンターも何もなく、私達はニーズを探しながら活動する状況でした。ボランティアに安全な活動へ参加をお願いするには、ボランティアセンターの必要性を痛感し、水島氏に新しい組織を作りたいと持ちかけ、藤沢市災害救援ボランティアネットワークを立ち上げました。2006年10月に特定非営利活動法人藤沢災害救援ボランティアネット

コロナ禍であっても災害は

待ってくれない 備えよ常に 副理事長 水島 三千夫

2001年10月設立準備会から2003年5月の設立へ、2014年8月の三者協定締結を経て今日まで殆ど手探り状態で進めて参りました。この間、新潟県中越地震2004.10、中越沖地震2006.7、東日本大震災2011.3、常総水害、西伊豆水害など被災地の支援をするなかで、被災地域の受援力＝ボランティアを受け入れる体制を整えておくことの重要さや災害情報の大切さを実感してきました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い災害ボランティア活動も一変、県域を越えての移動が制限され、避難所では感染予防のため近隣ボランティアに頼らざるを得ない状況になっています。コロナ禍であっても災害は待ってくれない。このような時だからこそ、日頃から顔の見える関係を築き、自治会・町内会が主体になって受援力（災害ボランティアセンターの開設運営など）の向上や地域防災Webを活用した安否確認体制などを図るシミュレーション訓練が大切であり、この普及に微力ながら努力したいと思います。防災の担い手は年々高齢化している、誰でもが関われるよう分かり易い運営と後進の育成も必須である。

理事長を支え出来ることから一つずつ・・・。

コロナ禍でも出来る事を

副理事長 唐松 初男

2020年度は新型コロナウイルス蔓延という経験した事が無い事態になり、人を集めての活動はほぼゼロの状態でした。2021年度も市や地区が開催する防災訓練

藤沢災害救援ボランティアネットワーク

理事長 大田 哲夫

川改修、遊水地整備、貯留管設置に繋がり、その後この様な甚大な被害は出ていません。災害ボランティア制度の素晴らしさは罹災経験があるからこそ実感でき、ボランティアセンターの重要性を認識させられました。

終息が見えないコロナ感染と大規模災害の増加等、非常に厳しい状況の中、理事長を拝命し、身の引き締まる思いです。されど優秀な仲間達と共に力を合わせ、一つひとつ課題を乗り越えて行けば必ず明日が開けて来ます。是非ご協力をよろしくお願いいたします。

藤沢災害救援ボランティアネットワーク

前理事長 森井 康夫

ワーク（FSVネット）となり、藤沢市13地区にボランティアセンター（サテライト）開設をお願いしている所です。藤沢市と三者（藤沢市、藤沢市社会福祉協議会、NPO法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク）協定を結び、地元のFM放送（レディオ湘南）と情報共有の協定も結んでいます。コロナ禍でも様々な災害の発生が心配されています。FSVネットへの期待は益々高まっており、これからもよろしくお願いいたします。

関係各位の皆様ご協力ありがとうございました。

の場での啓蒙活動は難しい状態ですが、災害コーディネーター養成講座は人員を絞り、感染対策を充分に行えば開催が可能です。また、ZOOM（ウェブ会議システム）を使うオンライン講座も可能性を探ってみたいと思います。

しっかりした受援力の向上を

副理事長 鈴木 信夫

東日本第震災から10年が過ぎましたが、いつどこで起こるか分からない大災害は、被災の状況も地域によって様々です。最近の被災状況を見ると自衛隊、レスキュー隊と言った専門的技術が無いと出来ない場合もあります。しかしながらなんといってもボランティアの力と創造性は一日も早い復興・復旧には欠かせません。こうしたボランティアの力を最大限発揮させることができるのはボランティアセンターです。体制整備とコーディネーターの養成に力を入れ、しっかりした受援力の向上に努めて参ります。

受援力向上は連携で

副理事長 小林 亘

新理事長をサポートする様に推挙された意味を噛みしめ今まで以上に精一杯頑張る所存です。鶴沼地区では災害ボランティアセンター運営委員会がサテライトとして頑張ってくれていますが、これからは相互に連携し防災・減災についての日常の意識向上を図り受援力の向上をさらに進めて行きたいと思います。ただ、現状のコロナ禍では難しいので早く下火になる事を願うばかりです。

編集後記

オリンピックに前後して急速なコロナ感染が広まり、医療崩壊が始まっている。災害時と同じレベルであると言われているが、災害ならば時の経過と共に先が見えてくるが、コロナ感染だけは出口が見えてこない。1人ひとりが危機感を持ち、新しい生活様式をきっちりと守る事が最低限の防御策だろう。

FSVネットニュース

発行者 大田 哲夫

発行所 特定非営利活動法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク

〒251-0024 藤沢市鶴沼橋1-11-8

☎0466-22-5344 fax0466-22-5344

E-mail: fsvnet@arts-k.com